科目名	法学の基礎 II	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Law II	1	後期	2
担当者名（ふりがな）	渡部　毅（わたなべ　たけし）	テーマ	1．法の適用と解釈 2．日本国憲法の通説的理解	

授業概要

この授業では、第1に、具体的な紛争が発生した場合に、その紛争を解決するため実際に法が解釈・適用される際のルールについて学習する。さらに、民事事件や刑事事件の裁判の進め方についても概観する。

第2に、わが国の最高法規である「日本国憲法」の概略について学習する。憲法は全体で103条からなり、わが国の政治システムの骨格を定めるとともに、一般に基本的人権と呼ばれる様々な権利を規定している法である。講義では、憲法はどのような法であるのかについて基本原理に則して解説した上で、とくに基本的人権の概要について学習する。

授業計画	後期
第1回	法の適用
第2回	法の解釈(1)
第3回	法の解釈(2)
第4回	法の解釈(3)
第5回	法と裁判
第6回	民事訴訟
第7回	刑事訴訟
第8回	日本国憲法とはどのような法か
第9回	憲法の基本原理1)
第10回	憲法の基本原理2)
第11回	基本的人権(1)
第12回	基本的人権(2)
第13回	基本的人権(3)
第14回	基本的人権(4)
第15回	試験

テキスト	『法律学の礎』（八千代出版・2002年）。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	
単位認定の方法	主として、試験の成績による。
内容的に関連する科目	法学の基礎I

科目名	数学のはなしⅡ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Basic Mathematics Ⅱ	1	後期	2
担当者名（ふりがな）	渡部　勇（わたなべ　いさむ）	テーマ	「数学的素養の構築」と「公務員試験対策」	

授業概要

数学は、「計算規則の集まり」ではなく、ましてや「問題解法の集まり」でもない。「論理的・定量的に考え、議論を推し進めて、新たな結論を導き出す事」が、数学のエッセンスである。この様な考え方、即ち「数学的素養」を身に付けるために、前半で公務員試験を題材として、数学的発想力を活用する方法を学び、後半ではより高度な数学計算法を学ぶ。前期の「数学のはなしⅠ」と同様に、論理性に焦点を当てた授業展開をするので、『答の出し方が覚えられれば良い』といった様な勉強の仕方を捨てて、『どうして、そう考えるのか』といった疑問を常に意識しながら勉強してもらいたい。

授業計画	後期
第1回	授業運営方針の説明・前期試験解説
第2回	公務員試験対策1　公務員試験とは？・n進数1
第3回	公務員試験対策2　n進数2
第4回	公務員試験対策3　時計算
第5回	公務員試験対策4　単位を工夫しよう
第6回	公務員試験対策5　三角形と四角形
第7回	公務員試験対策6　円の面積と周
第8回	公務員試験対策7　立体図形
第9回	公務員試験対策8　論理代数・集合
第10回	三角関数・弧度法
第11回	指数・対数
第12回	数列と級数
第13回	微分
第14回	積分
第15回	試験

テキスト	鑰山徹『これから学ぶ文科系の基礎数学』工学図書㈱
参考文献	授業中に紹介する
単位認定の方法	試験、レポート、小テスト、出席による
内容的に関連する科目	数学のはなしⅠ

科目名	情報と消費の社会 （旧社会学Ⅰ）	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Society of Consumption and Information	2	後期	2
担当者名（ふりがな）	庄司　信（しょうじ　まこと）	テーマ	情報化・消費化社会の現在と未来	

授業概要

現代社会についての一つの全体像を提示するものとして、見田宗介『現代社会の理論』を読む。20世紀半ばにアメリカで成立したとされる「現代社会」の基本的特徴（情報化・消費化）と問題点（環境・資源問題と南北問題）を知ってもらうとともに、見田さんが提示する問題解決の方向性を学び、その妥当性を検討してみたい。なお、この講義は、少し難しいテキストを自分で読めるようになってもらうことも意図している。つまり文章読解的な話もするが、半期で1冊全部を丁寧に読むことは無理があるので、第1、4章を中心に議論の大筋を抑えることに主眼を置く。

授業計画　後期
第1回　『現代社会の理論』の「はしめに」
第2回　第1章の1
第3回　第1章の2
第4回　第1章の3、4
第5回　第1章の5、6
第6回　第2章概説
第7回　同上
第8回　第3章概説
第9回　同上
第10回　第4章の序と1
第11回　第4章の2、3
第12回　第4章の4、5
第13回　第4章の6、7
第14回　第4章の結と「おわりに」
第15回　全体のまとめと批判的検討

テキスト	見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）1996年
参考文献	テキストの読解ノートのようなものを配布する
単位認定の方法	出席とレポートまたは試験の総合評価
内容的に関連する科目	家族の危機と変容（旧社会学Ⅱ）

科目名	ミクロ経済学	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Microeconomics	2	後期	2
担当者名（ふりかな）	宮崎浩伸（みやざきひろのぶ）	テーマ	基本理論を学ぶ	

授業概要

この授業は、1年次に履修した『ベーシック経済学』をさらに発展させた授業です。ミクロ経済学は、マクロ経済学と同様に、全ての経済学の基本となる科目です。そこで、授業では、まず、一通りのミクロ経済理論を身につけることを目的としています。新しい理論を学んだら、理解度を深めるためにも、確認問題を解くことを行いたいと思います。できるだけ、数式の利用は避け、図表により、理論を理解できる内容にしたいと考えています。可能な限り、皆さんからの理解度を見ながら、ゆっくり進めていきたいと思いますので、安心して受講して下さい。

授業計画	後期
	第1回　イントロダクション　ミクロ経済学について
	第2回　需要の理論
	第3回　消費者行動の理論
	第4回　供給の理論
	第5回　需要曲線と弾力性
	第6回　市場の理論
	第7回　需要と供給で解く経済問題
	第8回　余剰分析で解く経済問題
	第9回　市場の失敗(1)
	第10回　市場の失敗(2)
	第11回　市場の失敗(3)
	第12回　市場の失敗　まとめ
	第13回　不確実性のもとでの選択行動
	第14回　試験対策
	第15回　予備日

テキスト	家森信善・小川光『基礎からわかるミクロ経済学』（中央経済社）
参考文献	荒井一博他『はじめて学ぶ経済学』（中央経済社）
単位認定の方法	出席と試験
内容的に関連する科目	マクロ経済学

科目名	日本経済の歩みⅡ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese Economic HistoryⅡ	2	後期	2
担当者名（ふりがな）	鈴木達郎（すずき たつろう）	テーマ	明治維新期と産業革命期の日本経済	

授業概要

本講義の対象は、1853年のペリー来航から、明治維新、日清・日露戦争を経て、1910年の韓国併合までである。この時期に日本は近代化へのテイクオフに一応は成功を収めた。その過程は、手放しで賞賛されることでもなければ、一方的な非難があびせられることでもない。本講義の課題は、なぜ日本がテイクオフに成功することができたのかを経済史の視点から考察し、戦前の日本経済の歴史的特質を明らかにすることにある。

	授業計画　　後　　期
	第1回　開国の経済的影響
	第2回　開国の政治的影響－幕末政治過程
	第3回　地租改正
	第4回　秩禄処分
	第5回　殖産興業
	第6回　明治国家の成立
	第7回　小括－明治維新期の日本経済
	第8回　産業革命の開始
	第9回　重工業と鉱山業の展開－財閥論
	第10回　紡績業の展開
	第11回　製糸業の展開
	第12回　農業の展開－地主制論
	第13回　小括－産業革命期の日本経済
	第14回　総括－戦前から何を学ぶか
	第15回　定期試験

テキスト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。
参考文献	講義の中で紹介する。
単位認定の方法	試験の結果に出席点を加点して評価する。
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみⅠ、欧米の産業と交易の歴史Ⅰ・Ⅱ

科目名	生活と政治Ⅱ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Life and Politics Ⅱ	2	後期	2
担当者名（ふりがな）	吉野　篤（よしの　あつし）	テーマ	政治とはなにか	

授業概要

現代の政治の具体的な仕組みや流れを、現在の政治学の水準にできるだけ即しながら、取り上げる予定である。ここ20年ほどの政治学のトレンドにも触れたい。

授業計画	後期
	第1回　政治過程の概説
	第2回　政党の定義・機能
	第3回　政党制の分析枠組①
	第4回　政党制の分析枠組②
	第5回　選挙の原則・意義・機能
	第6回　選挙制度①
	第7回　選挙制度②
	第8回　圧力団体の機能と動態
	第9回　アメリカ政治学の展開①
	第10回　アメリカ政治学の展開②
	第11回　脱行動論革命とそれ以後の傾向
	第12回　新制度論の分析枠組①
	第13回　新制度論の分析枠組②
	第14回　政治家論
	第15回　後期試験

テキスト	杉本稔編著『政治の世界』北樹出版
参考文献	授業の中でその都度示す
単位認定の方法	出席・試験
内容的に関連する科目	

科目名	世界の政治Ⅱ	科目・分類	選択科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	World Politics Ⅱ	2	後期	2
担当者名（ふりがな）	吉田拓也（よしだ たくや）	テーマ	国際機構論	

授業概要

前世紀の20世紀は「国際組織の世紀」といわれる。それは、ただ国際組織が多く創設されたという意味のみならず、国際組織の本質が大きく変わったという事実を示している。21世紀に入った現在においても、国際組織をめぐる問題の多くは未解決のままである。そこで、この講座では、国連、ＥＵ、ＡＳＥＡＮなどの国際組織に関連する問題を取り上げながら、国際機構論の基本的問題について講義する。

授業計画　後期
第１回　イントロダクション 講座の目的と対象、分析アプローチ
第２回　国際組織の歴史 主権国家体制、ウィーン体制
第３回　国際連合① 国際連盟、サンフランシスコ会議
第４回　国際連合② 総会、安保理、事務総長
第５回　国際連合③ 国連の歴史、冷戦後の国連
第６回　国際連合④ 国連改革
第７回　地域的国際機構① ヨーロッパ連合（ヨーロッパ共同体）
第８回　地域的国際機構② 北欧共同体、ヨーロッパ審議会、個人と国際機構
第９回　国際機構創設の動因 共通利益、相互依存ベネフィット
第10回　国際機構の構造・機能 理事会、総会、事務局、フォーラム、現業活動
第11回　国際機構における意思決定 多数決と全会一致、機構内ヘゲモニー
第12回　国際機構論の体系 国際組織法、国際法、国際政治、国際関係論
第13回　国際組織の理論 リアリズム、相互依存、グローバル・ガバナンス
第14回　国際機構の理論 連邦主義、機能主義、新機能主義、
第15回　試験

テキスト	最上俊樹『国際機構論（第２版）』（東京大学出版会、2006）
参考文献	最初の講義において詳しく説明します。
単位認定の方法	試験、課題および出席
内容的に関連する科目	東アジア経済の話（旧「東アジア経済論」）、ＥＵの経済（旧「ＥＵ経済論」）、資本主義経済のしくみⅠ/Ⅱ（旧「政治経済学Ⅰ/Ⅱ」）、国際経済学Ⅰ/Ⅱ（旧「国際経済論Ⅰ/Ⅱ」）、経済発展の歴史Ⅰ/Ⅱ（旧「経済政策論Ⅰ/Ⅱ」）、生活と政治Ⅰ/Ⅱ（旧「政治学Ⅰ/Ⅱ」）

科目名	経済地理学Ⅱ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Industrial Geography Ⅱ	3	後期	2
担当者名（ふりがな）	上村康之（うえむらやすゆき）	テーマ	第1次産業と第3次産業の地域構造	

授業概要

わが国における第1次産業と第3次産業の地域展開について学習する。第1次産業では、農業、林業、水産地理学について概観するとともに東北地方、秋田県といったスケールでその具体的な生産、加工、流通の展開を見ていくこととする。第3次産業では、商業・流通地理学について学習するが、消費者の行動面からと商業施設の立地面からアプローチし、東北地方の都市システムや各地の中心市街地活性化、郊外商業地などの都市問題にも言及する。

	授業計画　後期
	第1回　農業地理学　総論
	第2回　東北地方の農業と農畜産加工業1
	第3回　東北地方の農業と農畜産加工業2
	第4回　林業地理学　総論
	第5回　秋田県の林業と木材産業
	第6回　水産地理学　総論1
	第7回　水産地理学　総論2
	第8回　東北地方の水産業と水産加工業
	第9回　商業・流通地理学1
	第10回　商業・流通地理学2
	第11回　商業・流通地理学3
	第12回　環日本海交流の展望と課題
	第13回　沖縄―経済的自立と基地問題1
	第14回　沖縄―経済的自立と基地問題2
	第15回　まとめ

テキスト	竹内淳彦『日本経済地理読本』東洋経済新報社
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図　初訂版』帝国書院
単位認定の方法	定期試験とレポート
内容的に関連する科目	地理学の基礎、人間と地域、自然と地域、地域社会論Ⅱ

科目名	ヨーロッパ地域論Ⅱ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Area Study of Europe Ⅱ	3	後期	2
担当者名（ふりがな）	堀川静夫（ほりかわしずお）	テーマ	差別とは何か	

授業概要

人間が生活する所には多かれ少なかれ必ず「差別」が存在する。例えばヨーロッパにおいてデンマーク人の男性とフィンランド人の女性との結婚はよくあるが逆のケースはそれ程多くない。あるいはフランス社会ではアラブ系のあからさまの「差別」が我々か考える程に大きな社会問題にはならない。この様な社会現象をしっくりと分析してみると我々日本人とヨーロッパ人との間には「差別」という概念に対し大きな隔たりがある様に感じられる。アシア、日本との「差別」と比較しヨーロッパ人の「差別」の本質を探りたい。

	授業計画　後期
	第1回　Introduction
	第2回　〃
	第3回　ヨーロッパ社会の差別
	第4回　〃
	第5回　〃
	第6回　〃
	第7回　〃
	第8回　アジア社会の差別
	第9回　〃
	第10回　日本社会の差別
	第11回　社会差別の比較
	第12回　〃
	第13回　Debate
	第14回　〃
	第15回　〃

テキスト	特になし。
参考文献	授業中に指示する。
単位認定の方法	出席と試験を重視する。
内容的に関連する科目	

科目名	コミュニケーション論Ⅱ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Theory of Communication Ⅱ	3	後期	2
担当者名（ふりがな）	庄司　信（しょうじ　まこと）	テーマ	論理的思考の訓練	

授業概要

もともと日本人は物事をはっきり言わない傾向が強いと言われるが、学生としてであれ社会人としてであれ、それだけでは困ってします。理路整然と話せる能力の訓練が必要である。そして論理的思考の基礎的訓練には、話し言葉よりは書き言葉が適している。そこで、この講義では野矢茂樹『論理トレーニング』によりながら、論理的思考の訓練を行う。非常に地道な訓練と感じるかもしれないが、あらゆる思考の基礎として、ぜひ学んでほしい。なお、授業は皆さんが事前に予習してくることを前提に進めるので、そのつもりで選択して下さい。

	授業計画　後期
	第1回　順接の論理
	第2回　同上
	第3回　逆説の論理
	第4回　同上
	第5回　議論の構造
	第6回　同上
	第7回　論証の構造
	第8回　同上
	第9回　論証の評価
	第10回　同上
	第11回　推測
	第12回　同上
	第13回　価値評価
	第14回　同上
	第15回

テキスト	野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書、1997年）のコピーを配布します
参考文献	
単位認定の方法	出席と試験の総合評価
内容的に関連する科目	

科目名	地理学の基礎Ⅱ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Geography Ⅱ	1	後期	2
担当者名（ふりがな）	上村康之（うえむらやすゆき）	テーマ	観光地理学と東アジア・ロシア極東の地誌	

授業概要

地理学Ⅱは、観光地理学と外国地誌（東アジア・ロシアの地誌）の二部構成とする。観光地理学では、観光振興が近年の地域振興の大きな柱になっていることから、観光とは何かという基本を習得したのち、観光産業、国内観光の動向、そして秋田県の観光振興について考えていきたい。外国地誌のうち、東アジア・ロシア（極東地域）の地誌をとりあげる。特に各地域の民族や国家の特色や課題、日本との関係に視点を置いた内容とする。

	授業計画　　後　　期
	第1回　観光地理学とは何か
	第2回　観光の基本
	第3回　観光産業
	第4回　国内観光の動向と課題
	第5回　リゾート
	第6回　グリーン・ツーリズム
	第7回　都市観光
	第8回　温泉地
	第9回　観光政策
	第10回　秋田県の観光
	第11回　現代の国家と民族問題
	第12回　中国
	第13回　韓国
	第14回　ロシア極東
	第15回　まとめ

テキスト	溝尾良隆著『観光学　基本と実践』古今書院、2003年
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図　初訂版』帝国書院
単位認定の方法	定期試験とレポート
内容的に関連する科目	産業と地域、人間と地域、自然と地域

科目名	入門経済学（A～Cクラス）	科目・分類	専門科目・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Basic Economics	1	後期	2
担当者名（ふりがな）	栗田 康之（くりた やすし）・本田 雅子（ほんだ まさこ）・塚谷 文武（つかたに ふみたけ）	テーマ	基礎からの経済学	

授業概要

前期科目の現代社会と経済（必修）の講義を受けた学生を対象に、経済（学）の必須の基本用語を確実に身に付けさせることを目的とした講義である。また、2年次にマクロ経済学・ミクロ経済学を学習する学生のため、入門から本格的な経済学の学習への橋渡しも目的としている。このため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的理論の中から、エッセンス部分を取り出し、できるだけ平易にかみ砕いて丁寧に教授する。

授業計画	後期
	第1回　ミクロ経済学とマクロ経済学の違い
	第2回　ミクロ経済学の基礎(1)：消費と需要
	第3回　ミクロ経済学の基礎(2)　消費と需要
	第4回　ミクロ経済学の基礎(3)：生産と企業
	第5回　ミクロ経済学の基礎(4)：生産と企業
	第6回　ミクロ経済学の基礎(5)：市場の均衡
	第7回　ミクロ経済学の基礎(6)：不完全競争市場
	第8回　ミクロ経済学の基礎(7)：公共財
	第9回　マクロ経済学の基礎(1)：ＧＤＰ
	第10回　マクロ経済学の基礎(2)：乗数効果
	第11回　マクロ経済学の基礎(3)：金融政策
	第12回　マクロ経済学の基礎(4)：景気変動
	第13回　マクロ経済学の基礎(5)：物価
	第14回　マクロ経済学の基礎(6)：現代日本経済
	第15回　まとめ

テキスト	未定だが、テキストは使用する。
参考文献	随時紹介する。
単位認定の方法	授業＋試験＋出席から総合的に評価する。
内容的に関連する科目	現代社会と経済

科目名	環境のはなしII	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Ecology and Environment Science II	2	後期	2
担当者名	渡部　勇	テーマ	「科学としての環境論」と「自ら考える環境論」	

授業概要

この授業では、環境問題自体を科学的に捉え、自ら分析・判断して行くという態度を身に付け、個々や社会集団の地球全体に対する責任を自覚し、正しい環境対策の実践に目を向けてもらう事がテーマである。具体的には、エネルギー問題と生活環境問題を取り上げる。科学的手法としての抽象化・単純化・定量化を行った幾つかのモデルで、原理的問題や経済活動との関連を議論する。

環境問題に対しては、個々が問題を科学的にとらえ、論理的に議論を交わす事で、複雑に絡み合った問題に対する理解をより深めて行く事が重要である。

授業計画	後期
第1回	授業運営方針の説明・前期試験解説
第2回	エネルギー問題・エネルギーとは？
第3回	化石エネルギー
第4回	原子力エネルギー1 原発の原理
第5回	原子力エネルギー2 原発の問題点
第6回	新エネルギー1 太陽光発電
第7回	新エネルギー2 風力発電
第8回	新エネルギー3 需要サイトの新エネルギー
第9回	生活環境・大気汚染
第10回	酸性雨
第11回	廃棄物
第12回	リサイクル
第13回	ダイオキシン類と環境ホルモン
第14回	環境問題と環境詐欺
第15回	試験

テキスト	プリントを配布する
参考文献	授業中に紹介する
単位認定の方法	試験・レポートによる
内容的に関連する科目	環境のはなし1

科目名	日本の歴史Ⅱ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		1	後期	2
担当者名（ふりがな）	佐々木 久吾（ささき きゅうご）	テーマ		

授業概要

さまざまな視点から我が国の歴史の展開を考察し、日本の文化や伝統について理解を深めるとともに、歴史の見方・考え方などを学ぶ。

1）各回のテーマにそった主題を設定し、その主題を核に授業を進める。

2）東アジア史及び世界史との関連や比較史的視点から日本史を考える。

授業方針と留意点

1）日本の歴史Ⅰ・Ⅱを通年で受講することが望ましい。

2）主題ごとにプリントを作成し授業をすすめる。

3）テキストを必ず購入し、丁寧に通読すること。

	授業計画　　後　　期
	第1回　織豊政権と桃山文化 （天下布武　検地と刀狩　洛中洛外図）
	第2回　江戸幕府の成立と幕藩体制 （大名徳川氏　武家諸法度　藩の成立）
	第3回　経済の発達 （新田開発　城下町　三貨と国内市場）
	第4回　幕府政治の推移 （徳川綱吉　享保の改革　田沼意次）
	第5回　近代的意識の萌芽 （石田梅岩　安藤昌益　佐藤信淵）
	第6回　幕末政局の展開 （尊王攘夷　公武合体　薩長同盟）
	第7回　明治政府の成立 （戊辰戦争　廃藩置県　地租改正）
	第8回　自由民権運動と帝国憲法の制定 （国会期成同盟　明治14年の政変　欽定憲法）
	第9回　条約改正と日清・日露戦争 （鹿鳴館時代　下関条約　ポーツマン条約）
	第10回　資本主義の成立と発展 （大阪紡績会社　八幡製鉄所　財閥の形成）
	第11回　第一次世界大戦と大正デモクラシー （ベルサイユ体制　民本主義　憲政の常道）
	第12回　独占資本主義と社会問題 （昭和恐慌　満州事変　国家革新運動）
	第13回　日中戦争と太平洋戦争 （国家総動員法　三国同盟　大東亜共栄圏）
	第14回　現代の日本(1) （ポツダム宣言　GHQ　日本国憲法）
	第15回　現代の日本(2) （朝鮮戦争　講和条約　日米安保条約改訂）

テキスト	寶月圭吾・児玉幸多編「新稿日本史概論」吉川弘文館
参考文献	日本歴史教育研究会編「Story 日本の歴史・下」山川出版社 竹内誠・他編「教養の日本史」東京大学出版会。授業のなかでも紹介していく。
単位認定の方法	レポートや出席状況等を勘案し総合的に評価する。
内容的に関連する科目	

科目名	社会人類学	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	social anthropology	1	後期	2
担当者名（かまだ ゆきお）	鎌田幸男	テーマ	ふたつの「みんぞく」学	

授業概要

人類学は、人間つまり人類の研究ということで「全体論的」な科学と称されているが、社会人類学は社会構造の問題に焦点を当てているところに特徴がある。そしてすべての人類文化と社会を題材とした社会的行動、例えば家族制度、親族の組織、政治組織、法的組織、宗教的儀礼など一般に制度化された形態における関係を主な研究領域としている。本講義では、異なった社会でのそれぞれの歴史的・社会的条件を考えながら人々の生活様式としての文化、社会組織とその中における人間、人間関係をとり上げる。

	授業計画　後期
	第1回　環境と人間
	第2回　(1)　生産活動の諸形態
	第3回　(2)　技術革新による影響
	第4回　親族のこと
	第5回　(1)　日本人にとっての親族
	第6回　(2)　家族の形態
	第7回　(3)　婚姻に関すること
	第8回　宗教観
	第9回　(1)　アニミズムとシャーマニズム
	第10回　(2)　宗教と呪術
	第11回　(3)　年中行事と儀礼
	第12回　人と文化を考える
	第13回　(1)　言語をもつということ
	第14回　(2)　社会集団の形成
	第15回　社会人類学の課題（まとめ）

テキスト	必要に応じてプリント配布をする。
参考文献	文化人類学入門（中公新書）、文化人類学読本（東洋経済新報社）、文化人類学（Ⅰ・Ⅱ）（古今書院）
単位認定の方法	定期試験、出席状況、受講態度等総合的に評価する。
内容的に関連する科目	文化人類学、社会学、地理学など

科目名	過去から学ぶ政治の知恵Ⅱ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Political History Ⅱ	1	後期	2
担当者名（ふりかな）	吉野　篤（よしの　あつし）	テーマ	過去と現在の対話	

授業概要

Ⅱでは主に市民改革の政治過程、具体的にはイギリス革命・アメリカ革命・フランス革命を取り上げた後、その後のウィーン体制の展開などについて論しる。思想史的要素として革命への反応としての保守主義などを取り上げて、立体的な構成を心がけたいと考えている。

授業計画	後期
	第1回　市民革命の歴史的位置付け
	第2回　ピューリタン革命の政治過程①
	第3回　ピューリタン革命の政治過程②
	第4回　名誉革命の政治過程と意義
	第5回　アメリカ独立革命の政治過程①
	第6回　アメリカ独立革命の政治過程②
	第7回　フランス革命の政治過程①
	第8回　フランス革命の政治過程②
	第9回　ウィーン体制の形成と展開①
	第10回　ウィーン体制の形成と展開②
	第11回　反革命の政治的反応（保守主義）
	第12回　現代史の理解の仕方①
	第13回　現代史の理解の仕方②
	第14回　政治史学の現在
	第15回　後期試験

テキスト	使用しない
参考文献	授業の中でその都度示す
単位認定の方法	出席・試験
内容的に関連する科目	生活と政治Ⅱ

科目名	文章の表現Ⅱ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Composition Ⅱ	1	後期	2
担当者名（ふりがな）	橋元志保（はしもとしほ）	テーマ	論理的な思考力、表現力を身につける	

授業概要

良い文章とは、どのような文章なのでしょうか。それは、主題や文章力、構成に優れているだけでなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは、自分自身をみつめ直すことに繋がるのです。本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的構造を持った文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、レポートや論文作成のために必要な、論説文の書き方を身につけていきます。

	授業計画　後期
	第1回　読むことと書くこと①
	第2回　読むことと書くこと②
	第3回　構成とテーマの設定①
	第4回　構成とテーマの設定②
	第5回　資料の探し方
	第6回　要約と引用①
	第7回　要約と引用②
	第8回　論説文を書いてみよう①
	第9回　論説文を書いてみよう②
	第10回　論説文を書いてみよう③
	第11回　推敲と批評①
	第12回　推敲と批評②
	第13回　言葉と文章①
	第14回　言葉と文章②
	第15回　総括

テキスト	辰濃和男『文章の書き方』（岩波新書　1994年）他、適宜プリントを配布する。
参考文献	千葉恭造・本多隼男他『文章表現と会話』（双文社出版　1983年）　尾川正二『文章のかたちとこころ』（ちくま学芸文庫　1995年）他
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
内容的に関連する科目	文章の表現Ⅰ・文章の読み方・小論文の書き方

科目名	入門経済学（A～Cクラス）	科目・分類	専門科目・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Basic Economics	1	後期	2
担当者名（ふりがな）	栗田（くりた） 康之（やすし）・本田（ほんだ） 雅子（まさこ）・塚谷（つかたに） 文武（ふみたけ）	テーマ	基礎からの経済学	

授業概要

前期科目の現代社会と経済（必修）の講義を受けた学生を対象に、経済（学）の必須の基本用語を確実に身に付けさせることを目的とした講義である。また、2年次にマクロ経済学・ミクロ経済学を学習する学生のため、入門から本格的な経済学の学習への橋渡しも目的としている。このため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的理論の中から、エッセンス部分を取り出し、できるだけ平易にかみ砕いて丁寧に教授する。

	授業計画　　後　　期
	第1回　ミクロ経済学とマクロ経済学の違い
	第2回　ミクロ経済学の基礎(1)：消費と需要
	第3回　ミクロ経済学の基礎(2)：消費と需要
	第4回　ミクロ経済学の基礎(3)：生産と企業
	第5回　ミクロ経済学の基礎(4)：生産と企業
	第6回　ミクロ経済学の基礎(5)：市場の均衡
	第7回　ミクロ経済学の基礎(6)：不完全競争市場
	第8回　ミクロ経済学の基礎(7)：公共財
	第9回　マクロ経済学の基礎(1)：ＧＤＰ
	第10回　マクロ経済学の基礎(2)：乗数効果
	第11回　マクロ経済学の基礎(3)：金融政策
	第12回　マクロ経済学の基礎(4)：景気変動
	第13回　マクロ経済学の基礎(5)：物価
	第14回　マクロ経済学の基礎(6)：現代日本経済
	第15回　まとめ

テキスト	未定だが、テキストは使用する。
参考文献	随時紹介する。
単位認定の方法	授業＋試験＋出席から総合的に評価する。
内容的に関連する科目	現代社会と経済

科目名	小論文の書き方	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Critical Thinking and Writing	1	後期	2
担当者名（ふもがな）	橋元志保（ほしもとしほ）	テーマ	論理的文章の書き方の基本を身につける	

授業概要

本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを設定し、それに基づいて調査し、考え、まとめる」という作業が非常に多いのです。

まずはじめに論の構成やテーマの設定の仕方について学び、続いて資料の探し方、引用の方法などを学んでいきます。また自分が書いた文章を、表記や文体、構成等の観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけましょう。

	授業計画　　後　　期
	第1回　論説文とは①
	第2回　論説文とは②
	第3回　構成とテーマの設定①
	第4回　構成とテーマの設定②
	第5回　資料の探し方①
	第6回　資料の探し方②
	第7回　小論文を書いてみよう①
	第8回　小論文を書いてみよう②
	第9回　小論文を書いてみよう③
	第10回　推敲の方法
	第11回　表記・段落・文体について
	第12回　引用と要約①
	第13回　引用と要約②
	第14回　文章の構造
	第15回　総括

テキスト	特に指定しない。また授業時に適宜資料を配布する。
参考文献	授業時に紹介する。
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
内容的に関連する科目	文章の表現Ⅰ・文章の読み方・小論文の書き方

科目名	国際経済学Ⅱ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Economics Ⅱ	2	後期	2
担当者名（ふりがな）	本田雅子（ほんだ まさこ）	テーマ	貿易政策	

授業概要

国際経済学Ⅰで学んだ国際経済学の理論的枠組から自由貿易は世界全体にとってもっとも望ましいことがわかるか、現実には各国政府は貿易政策を行なって貿易に対して何らかの制限を加えている。本講義では様々な貿易政策手段の経済的効果を学ぶとともに、なぜ各国が貿易政策を行うのかについて考える。

	授業計画　　後　　期
	第1回　貿易政策とは
	第2回　余剰分析の基礎
	第3回　関税の効果
	第4回　輸入割当の効果
	第5回　輸出補助金の効果
	第6回　関税同盟の効果
	第7回　自由貿易擁護論と反対論(1)
	第8回　自由貿易擁護論と反対論(2)
	第9回　所得分配と貿易政策
	第10回　国際交渉と貿易政策
	第11回　発展途上国の貿易政策(1)
	第12回　発展途上国の貿易政策(2)
	第13回　先進国と産業政策(1)
	第14回　先進国と産業政策(2)
	第15回　試験

テキスト	指定しない
参考文献	授業の中で適宜指示する。
単位認定の方法	基本的に、試験＋出席＋授業参加態度によって評価する
内容的に関連する科目	ミクロ経済学、国際金融論Ⅰ・Ⅱ